

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1 市民会館・公民館概要

会館は、基本的には多様な文化諸活動に対応しつつ（市民会館）教育機関としての公民館本館の機能を果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

敷地面積 4,937.07 m^2 建設延床面積 6,771.253 m^2

鉄筋コンクリート造り、地下1階、地上3階の構造

その施設、設備、職員、機能を通じ

- (1) 市民の出あい場（ひろば）
- (2) 集団活動のよりどころ
- (3) 人間（市民）としての向上の場（市民の大学）
- (4) 芸術、文化、娯楽の鑑賞と創造（劇場、音楽堂）

の役割を果たしている。

また、武蔵野台地区、熊川地区に、社会教育活動の拠点として、地域のさまざまな文化創造の場として公民館分館・松林会館・白梅会館がある。

- (1) 松林会館（武蔵野台地区）が、昭和54年5月に開館した。

敷地面積 1,104.98 m^2 建設延床面積 564.3 m^2

鉄筋コンクリート造り、2階の構造

- (2) 白梅会館（熊川地区）が、昭和55年5月に開館した。

敷地面積 2,158.03 m^2 建設延床面積 570.59 m^2

鉄筋コンクリート造り、2階の構造

中国音乐史话

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

（中国音乐史话）

2 市民会館・公民館利用状況

利用件数

施設名			月別			4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3			合 計		
			有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数			
市民会館	ホール	大ホール	25	0	25	35	0	35	28	0	28	25	0	25	14	0	14	39	0	39	45	0	45	56	0	56	16	0	16	20	0	20	32	0	32	42	0	42	377	0	377			
		小ホール	23	0	23	13	0	13	28	0	28	37	0	37	19	0	19	21	0	21	20	0	20	36	0	36	9	0	9	9	0	9	12	0	12	24	0	24	251	0	251			
		小 計	48	0	48	48	0	48	56	0	56	62	0	62	33	0	33	60	0	60	65	0	65	92	0	92	25	0	25	29	0	29	44	0	44	66	0	66	628	0	628			
	集会所等	リハーサル室	10	1	11	3	0	3	5	0	5	6	12	18	0	0	0	19	5	24	11	3	14	15	18	33	6	3	9	3	5	8	13	0	13	9	5	14	100	52	152			
		第1集会室	9	18	27	4	19	23	3	27	30	6	16	22	14	10	24	14	25	39	9	25	34	10	34	44	7	16	23	9	21	30	14	14	28	5	24	29	104	249	353			
		第2 "	14	28	42	9	23	32	7	36	43	12	27	39	18	17	35	12	38	50	10	39	49	7	47	54	6	20	26	7	26	33	13	27	40	9	34	43	124	362	486			
		第3 "	23	20	43	8	29	37	14	19	33	14	31	45	13	15	28	11	35	46	13	27	40	10	46	56	7	22	29	10	26	36	15	32	47	12	41	53	150	343	493			
		第4 "	24	15	39	14	20	34	15	11	26	16	12	28	14	11	25	9	25	34	13	18	31	12	38	50	5	13	18	7	17	24	12	20	32	9	17	26	150	217	367			
		第5 "	27	7	34	8	18	26	15	13	28	8	18	26	9	21	30	16	15	31	20	13	33	18	36	54	15	11	26	16	16	32	21	16	37	23	11	34	196	195	391			
		第6 "	12	21	33	3	12	15	5	17	22	8	17	25	6	13	19	6	19	25	4	32	36	4	35	39	5	16	21	5	21	26	7	19	26	5	26	31	70	248	318			
		第7 "	6	22	28	1	11	12	3	16	19	6	17	23	3	10	13	4	18	22	4	31	35	4	34	38	2	16	18	3	20	23	5	18	23	2	20	22	43	233	276			
		第8 "	23	2	25	15	2	17	18	4	22	15	7	22	11	4	15	12	11	23	13	5	18	12	28	40	6	7	13	6	3	9	13	2	15	16	1	17	160	76	236			
		展示室	0	0	0	0	21	21	0	0	0	0	6	6	9	0	9	5	0	5	0	0	0	0	15	15	0	6	6	0	0	0	0	9	9	0	0	0	14	57	71			
		小 計	148	134	282	65	155	220	85	143	228	91	163	254	97	101	198	108	191	299	97	193	290	92	331	423	59	130	189	66	155	221	113	157	270	90	179	269	1,111	2,032	3,143			
公民館	調理室	1	7	8	0	8	8	0	22	22	1	19	20	0	16	16	2	11	13	1	7	8	4	37	41	0	16	16	0	3	3	0	14	14	0	32	32	9	192	201				
	美術室	0	15	15	0	34	34	0	20	20	0	17	17	0	5	5	0	7	7	0	43	43	0	58	58	0	17	17	0	6	6	0	10	10	0	22	22	0	254	254				
	音楽室	0	32	32	3	30	33	0	35	35	3	32	35	2	36	38	1	18	19	2	27	29	2	44	46	5	25	30	0	21	21	3	25	28	0	36	36	21	361	382				
	視聴覚室	5	26	31	0	22	22	1	23	24	0	29	29	0	25	25	0	27	27	0	24	24	0	39	39	0	18	18	0	21	21	2	28	30	1	26	27	9	308	317				
	児童室	4	22	26	6	20	26	4	19	23	4	13	17	11	5	16	14	20	34	10	21	31	9	32	41	9	18	27	16	19	35	10	17	27	16	19	35	113	225	338				
	小 計	10	102	112	9	114	123	5	119	124	8	110	118	13	87	100	17	83	100	13	122	135	15	210	225	14	94	108	16	70	86	15	94	109	17	135	152	152	1,340	1,492				
合 計			158	236	394	74	269	343	90	262	352	99	273	372	110	188	298	125	274	399	110	315	425	107	541	648	73	224	297	82	225	307	128	251	379	107	314	421	1,263	3,372	4,635			

松 林 会 館 利 用 状 況

		55年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	56年 1月	2月	3月	合 計
主 催 事 業	件数	18	9	16	26	32	30	58	26	19	21	34	37	326
	人員	215	132	253	440	846	548	3,426	663	504	651	977	876	9,531
住 民 の 社会教育活動	件数	28	36	38	45	40	30	41	38	36	24	38	53	447
	人員	518	494	510	864	557	465	804	662	727	482	645	995	7,723
公 共 (的) 団 体	件数	7	4	6	5	4	4	6	4	5	5	4	8	62
	人員	147	75	161	65	34	113	43	55	121	130	25	140	1,109
政治・宗教団体	件数	5	2	5	4	4	6	3	4	5	5	4	4	51
	人員	265	70	190	160	160	260	120	160	190	180	60	165	2,080
企 業	件数	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	5
	人員	0	0	10	36	0	0	0	10	0	0	0	15	71
そ の 他	件数	9	12	9	16	3	10	5	16	16	7	14	8	125
	人員	206	333	221	260	77	317	101	278	280	169	501	172	2,915
計	件数	67	63	75	98	83	80	113	89	81	62	94	111	1,016
	人員	1,351	1,104	1,345	1,825	1,674	1,703	4,494	1,828	1,822	1,612	2,308	2,363	23,429

白 梅 会 館 利 用 状 況

		55年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	56年 1月	2月	3月	合 計
主 催 事 業	件数	0	1	6	14	3	20	16	9	9	4	13	95
	人員	0	254	160	506	80	475	240	349	181	180	172	2,597
住 民 の 社会教育活動	件数	10	23	45	44	48	47	55	45	28	57	70	472
	人員	216	525	974	728	742	695	745	711	455	846	1 139	7,776
公 共(的) 団 体	件数	0	1	4	2	3	0	1	3	2	1	3	20
	人員	0	25	165	63	123	0	50	64	44	10	34	578
政治・宗教団体	件数	0	1	1	1	0	3	1	1	0	1	0	9
	人員	0	90	70	40	0	90	60	50	0	40	0	440
企 業	件数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	人員	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44
そ の 他	件数	0	0	0	5	1	1	0	3	1	3	5	19
	人員	0	0	0	170	25	40	0	59	13	97	184	588
計	件数	10	28	56	66	55	71	73	61	40	66	91	617
	人員	216	938	1,369	1,507	970	1,300	1,095	1,233	693	1,173	1,529	12,023

3 公民館運営審議会

審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する諮問機関である。

本年度の審議会の会議内容は次のとおりである。

昭和55年4月3日(木)午後1時30分 中央図書館

- ① 市民会館・公民館・今年度の管理運営計画について
- ② 白梅分館事業開始及び職員の事務分担について

昭和55年5月9日(金)午後1時30分 立川市中央公民館

- ① 東京都公民館連絡協議会通常総会

昭和55年5月30日(金)午前11時 公民館

- ① 会館管理運営計画について
- ② 公民館主催事業について
- ③ 市民会館主催事業について

昭和55年7月14日(月)午後1時30分 公民館

- ① 田口、上田委員紹介
- ② 議長、副議長及び委員長、副委員長の選任について
- ③ 昭和54年度市民会館、公民館の事業及び利用状況について

昭和55年11月7日(金)午後3時 市民体育館

- ① 議長、副議長及び委員長、副委員長の選任について
- ② 東京都公民館連絡協議会の報告
- ③ 公民館主催事業について
- ④ 市民会館主催事業について
- ⑤ 第19回 東京都公民館大会について

昭和55年12月10日(水)午後1時30分 東村山市民会館

- ① 第2回都公連委員部会

昭和56年1月28日(水)午後1時30分 福生市公民館

- ① 第3回都公連委員部会 福生市公民館の管理運営について

昭和56年2月1日(日)午前9時 国分寺市第2中学校

- ① 第19回 東京都公民館大会

昭和56年2月26日(木)午後1時30分 市民体育館

- ① 昭和56年度公民館事業計画について

4 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体・グループ・サークル・個人の相談に応じ、必要な助言、指導、援助等に職員、講師、助言者等の派遣紹介を行った。年間延回数 218 回

なお、公民館本館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これらの市民活動の相談にのり、必要な援助をするため、館職員が1名残る体制をとっている。

(午後5時から10時まで)

(2) 教材・教具等の利用

社 会 教 育 備 品 貸 出 件 数

月	55年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	56年 1	2	3	計
利 用 団 体	2	6	10	10	7	10	10	8	4	4	1	8	80
16 ミリ 映 写 機	1	4	7	8	6	7	7	3	2	3		4	52
8 ミリ 映 写 機				1		1	2	1	1		1		7
8 ミリ カ メ ラ						1							1
ス ラ イ ド 映 写 機		2						1				3	6
O H P			1					2					3
暗 幕	1	1	3	2	1	2		2				1	13
ス ク リ ー ン	1	1	4	3	3	2	1	3		1	1	5	25
シ ネ ス コ		1		1	1	1				1			5
ス ポ ッ ト ラ イ ト								2	1				3
ラ ジ オ カ セ ッ ト			1										1
16 ミリ フィ ル ム	1												1
計	4	9	16	15	11	14	10	14	4	5	2	13	117

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱い

月	55年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	56年 1	2	3	計
件 数	0	2	9	11	9	3	3	6	5	1	4	7	60
本 数	0	4	17	26	18	7	5	11	10	4	9	15	126

月平均 5件
10.5本

(3) 事務援助

印刷事務等

(4) 会場借上

大ホール 1回 (福生吹奏楽愛好会)

小ホール 2回 (福生吹奏楽愛好会・市民コーラス)

5 公民館主催事業

(1) 幼 児

幼児教室

1. 公民館幼児教育基本方針

- (1) 公民館は、保育室において、親達が幼児の成長・発達を図るため、幼児の学習の場を設定する活動について、積極的に援助する。

援助の内容

- ① 施設・設備の提供
- ② 親子に対する助言・手伝
- ③ 教材・教具・資料の提供
- ④ 機能上の援助(相互交流・研究・研修・講師等の紹介)

- (2) 公民館は、このほか幼児の成長・発達にむけて、自ら集団への適応を図り、仲間の中で遊ぶという、社会性の基礎を形成する幼児教育事業を実施する。

- (3) 同時に、子どもが子ども同士で学び合える環境を日常生活(地域)の中につくこと、及び親自身の成長が、幼児の成長・発達にとって不可欠であることから、公民館は、それらの親として、おとなとしての学習を積極的に援助する。

2. 幼児教室の実施について

上記1-(2)にもとずき、公民館は、幼児教室を実施するものとする。

都市化・核家族化の進行は、幼児が近隣の仲間のなかで遊ぶという機会を失なわせる傾向を強めるとともに、その社会性の基礎を形成しづらい環境が広がりがつつある状況となっている。そこで以下のとおり、幼児教室を実施した。

I. 目 標

幼児が仲間の中で遊ぶ能力を身につけ、社会性の基礎を養うことを目標とする。

II. 主 題

「異年齢集団への適応と遊びのちから」—— 問題解決と創造への知力の発達 ——

III. 内 容

幼児自身が集団の中で自立的行為ができるための情緒安定(保育者との信頼)をもとに、

幼児間の密度の高い仲間関係形成及び能動的な共同行為ができることにむけ、指導する。

■. 方 法

- ① 基礎的な生活習慣を身につける。(親との連れ合いによる、日常性の中で)
- ② 遊び道具を用いた自由(ひとり)遊びのちから。
- ③ 紙芝居・創作による、つくることへの関心のふくらみ。
- ④ 集団遊びによる、集団の中での行為能力。
- ⑤ 外遊びを含む運動能力の向上。

期 間 昭和55年4月より、以下各コース、実施回数の期間まで。

会 場 福生市公民館、本館、松林分館、白梅分館。

参 加	1. いこい、このみコース	15人 × 20回 = 300人
	2. あ ゆ みコース	15人 × 20回 = 300人
	3. ふ れ ん どコース	25人 × 20回 = 500人
	4. て づ くり Aコース	10人 × 10回 = 100人
	5. て づ くり Bコース	10人 × 10回 = 100人
	6. よ お がコース	10人 × 20回 = 200人
	7. こ お ら すコース	10人 × 20回 = 200人
	8. ぐ る う ぶコース	10人 × 12回 = 120人
	9. つ み きコース	15人 × 15回 = 225人
	10. ひ だ ま りコース	15人 × 15回 = 225人
	11. な か よ しコース	15人 × 15回 = 225人

参加幼児数 150人、 延参加幼児数 2,495人

※ 尚、上記以外の年間幼児教室の実施については、1-(1)の方針にもとづき、親の手による幼児教育事業として実施された。

幼児教育研究会(保育懇談会)

親が、子どもの教育の主体として幼児の成長・発達を図るために、幼児の集団教育を実施している。それは、母親間の合意の中で、“たくましく・健康的に・自由に仲間の中で遊ぶ”という基礎体験を得る機会としての実施である。

このことにむけて

- (1) 保護者として、幼児が集団に順調に適応するために、日常準備・留意事項を毎回欠かさず実施する。
- (2) 各幼児グループ保護者会は、グループ幼児みんなに共通する準備と、集団教育にかかる経費の事務を実施するとともに、単位保護者会と保育者の交流懇談を随時実施する。

- (3) 保育懇談会は、各幼児グループ保護者会をもって形成し、月例で実施する。ここでは
 ④ 幼児の成長・発達の研究、⑤ 親の育てる視点や役割について、⑥ 幼児教育実施の態勢
 充実に向けて、母親・保育者・公民館職員の三者にて研究をすすめた。

期 間 昭和55年4月から年間（月例、全12回）

会 場 福生市公民館

参 加 20人 × 12回 = 240人

(2) 少 年

たんけん教室

小学4年生から中学3年生までを対象とし、市内及び近隣の自然・文化財の様子を見て歩き、福生の成り立ちと私たちの生活を考える機会とする。

期 間 7月5日（午後2時から4時30分まで）～ 56年3月22日まで、全16回

参加者 32人 延人数 320人

月 日	テ ー マ	内 容
7. 5	オリエンテーション	たんけん教室の説明
7. 19	実 践 練 習	シルバーコンパスと地図の使い方を知る
8. 6	市内たんけん	熊川地区の文化財をコンパスで探して歩く
8. 27	草花丘陵たんけん	草花丘陵の文化財と自然の様子を見て歩く
8. 30	奥多摩たんけんⅠ	川乗山ハイキングの打合せ、ミーティング
9. 14	奥多摩たんけんⅠ	川乗山の二次林と植林地を比較する
10. 18	奥多摩たんけんⅡ	三頭山ハイキングの打合せ、ミーティング
10. 26	奥多摩たんけんⅡ	三頭山の紅葉した原生林の様子を見て歩く
11. 29	滝山丘陵たんけん	滝山丘陵の自然と利用状況を考える
12. 14	滝山丘陵たんけん	滝山でオリエンテーリングと林間サッカー
12. 25	クリスマス・パーティー	写真の配付と登山証明書の発行
2. 14	奥多摩たんけんⅢ	棒の折山ハイキングの打合せ、ミーティング
2. 22	奥多摩たんけんⅢ	冬の二次林の様子と雪合戦あそび
3. 18	ファミリーハイキング	ファミリーハイキングの候補地選び
3. 21	下見調査（雨天中止）	裏高尾コースの下見（陣馬山～高尾山）
3. 22	ファミリーハイキング	裏高尾の尾根を親子で歩く

夏休み自然教室

小学4年生から中学3年生までを対象とし、現在の福生でふれることのできる自然（草木、

昆虫・野鳥など）とできるだけ多くふれ、夏休みを通して自然とのつながりを深くする。

また、グループ活動を通じて自然と接することから、集団の中の個人の役割も理解できるよう配慮する。

期 間 7月25日（午前10時から正午まで）～8月28日まで 全10回

参加者 18人 延人数 150人

月 日	テ ー マ	内 容
7. 25	オリエンテーション	自然教室の日程・内容の説明
7. 28	林の昆虫を見つけよう	トラップを使い、林の昆虫を観察する
7. 31	朝の野鳥を見てみよう	朝早く河原の野鳥を観察する
8. 13	河原の植物を見てみよう	河原の成り立ちと、植物の様子を見る
8. 18	市内の地形・樹木を見よう	市内の林と地形、植物の関係を見て歩く
8. 19	市内でキャンプして24時間 を体験しよう	キャンプ生活を体験して、自然の24時間を肌で 感じるよう配慮する
8. 20		
8. 22	まとめ I	自然を総体として把握できるよう配慮する
8. 25	草原の昆虫を見てみよう	林の昆虫と比較してみる
8. 28	まとめ II	まとめIの続きと反省会

夏休みマンガ教室

小学4年生以上から大人までを対象とし、今日のマンガのあり方、日常生活の中で占める割合・意味等を、実際に描くことから考えようと実施した。

期 間 8月6日（午前10時から正午まで）～8月8日まで 全3回

参加者 41人 延人数 107人

月 日	テ ー マ	内 容
8. 6	マンガの説明	マンガの全体的な説明
8. 7	マンガの描き方 I	具体的な描き方・色の塗り方・用具の使い 方の説明など
8. 8	〃 II	

子ども会リーダー研修会 “あそび博士になろう”

小学3年生から中学3年生までを対象とし、冬の屋外遊びを通して異年齢集団の遊びの可能性・子ども同士のリーダー養成等を考える。

期 間 56年1月31日（午後2時から4時30分まで）～2月28日まで 全7回

参加者 21人 延人数 115人

月 日	テ ー マ	内 容
1. 31	オリエンテーション	自己紹介とこの教室の説明
2. 7	河原あそび (Ⅰ)	多摩河原のうさぎを追いかけてみる
2. 11	滝山丘陵ハイキング	林の中での鬼ごっこ、サッカー
2. 18	草花丘陵あそび	〃 缶ケリ
2. 21	市内公園あそび	Sケン、宝島などの集団あそび
2. 25	河原あそび (Ⅱ)	多摩河原のうさぎを追いかけてみる
2. 28	反 省 会	あそび博士の表彰と室内ゲーム

子ども陶芸教室 (4～6年)

現在、子供たちの遊び道具のほとんどが完成品か、それに近いものであり、子供だけがもつ柔軟な創意を遊びの中に生かす機会が減ってきている。

陶芸(楽焼)を通して、子供たちに、自らの手で作る楽しさをもたせる。

プログラム 全4回 参加者 20人

月 日	テ ー マ (内 容)	講 師
7. 31	自分の一番好きなものをつくろう	担当職員
8. 7	はと笛をつくろう	箕田寅生氏
8. 21	素焼のできあがったものに色や模様をつけてみよう	担当職員
8. 28	本焼を見学して、焼物がどうやってできるか調べよう	〃

子どもサバイバル教室 (松林分館)

工夫することを忘れた子供達に、生きるための知恵を身につけさせ、工夫する心と、いざという時役に立つ、たくましさを養う。

期 間 6月25日～7月26日 午後2時～4時 全7回

参加者 37人×7回＝259人

月 日	テ ー マ	内 容	場 所
6. 25	アドベンチャーゲーム	追跡サインゲーム	武蔵野台公園
7. 2	水をつくろう	ビニールシートで水をつくる	松 林 分 館
7. 9	地図の見方、役に立つ野草	食べられる野草のいろいろ	多 摩 河 原
7. 16	測量、応急処置	救急法のいろいろ	松 林 分 館
7. 21	火・連絡	着火法・手旗信号	松 林 分 館

月 日	テ ー マ	内 容	場 所
7 23	むすびの技術	ロープワークあれこれ	武蔵野台公園
7.25～7.26	キャンプ	技術の応用	川井キャンプ場

夏休み子供教室・びんぼう工作（松林分館）

既製・できあいの物質文明の中で、物を創り出すよろこびを忘れてしまった子供達に、身近な廃物を利用して、創るよろこびを感じさせる。

期 間 8月22日～8月29日 午前10時～正午 全4回

参加者 52人×4回＝208人

月 日	内 容	講 師	場 所
8. 22	廃物利用のデコパージュの基本	松本加代子氏	松林分館
8. 25	“ の応用		“
8. 28	廃物利用のマリオネット製作		“
8. 29	“		“

親子七宝焼教室（松林分館）

手軽な趣味のひとつである七宝焼を親子で楽しみ、そして、親子の会話のひとつの場として。

期 間 3月14日 午後2時30分～4時30分・15日 午後1時～5時 全2回

参加者 32人×2回＝64人

月 日	内 容	講 師	場 所
3. 14	七宝焼製作	下田和史氏 (福生六小教諭)	松林分館
3. 15	“		“

子ども会リーダー研修会（わんぱく教室）（松林分館）

地域子ども会で活動できるリーダー育成と、異年齢集団による遊びの育成。

期 間 6月28日～8月22日 全14回 毎土曜日午後2時から4時。延人数 300人。

プログラム

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 28	オリエンテーション	ゲームと班編成、班長等の選出	担 当 職 員
7. 5	ゲームの指導法	ゲーム指導とその実際	“
7. 12	“	“	“

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 19	オリエンテーリング	地図の見方とオリエンテーリングの実際	斉藤明、神蔵誠 (中学生指導員)
23	野外活動の基礎知識	テントの組立て実習、縄文式火おこしの実際	〃
26	手づくり食料をつくろう	手うちうどんづくり	担 当 職 員
30	布をおってみよう	アメリカンインディアンのカード式織機で布を織る	参加者 新井さんのお母さん
8. 9 11 16	キャンプの計画をつくろう	キャンプ実習に向けてキャンプの日程と内容を全員で検討 キャンプでのプログラムをつくる	担当職員、中学生指導員
18	キャンプの打ち合せ会	キャンプ実習事前打ち合せ	担 当 職 員
20	キャンプ食料買出しに行こう	班の代表者で食料の買い出し	
21 22	キャンプ実習	奥多摩町菅川井キャンプ場で キャンプ実習	担 当 職 員 中学生指導員 高校生指導員

青 空 教 室 I. (松林分館)

異年齢集団を通して、自分たちの力で遊びを発見する力をやしない、わんぱく教室参加者の指導の場を提供する。 1年生から6年生。

期 間 8月13日・14日・15日・16日・17日 全5回 延100人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 13	たのしくあそぼう	ゲーム、室内で出来るゲームを覚える	担当職員
14	たのしくあそぼう	野外ゲームを覚えよう	〃
15	たのしい手づくりおもちゃをつくろう	バタパタの製作	〃
16	自分でうどんをつくってみよう	手うちうどんづくり	〃
17	デーキャンプでたのしもう	カレーライスづくりと竹とんぼづくり	〃

青 空 教 室 II. (松林分館)

たのしくみんなで遊ぶという経験を通して、異年齢集団とのかかわり、仲間に働きかけて何かが出来るという組織能力とその実務能力を育てる。特に班における、6年生の役割を重視した。 対象 1年生から6年生。

期 間 1月31日～3月28日 全10回 毎土曜日 原則として午後2時～4時。

延 140人

プログラム

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 31	オリエンテーション	班編成、班長、記録等の選出	担 当 職 員
2. 7	たのしくゲームを覚えよう	室内でゲームを覚えよう	御 野 弘 氏 (中 大 学 生)
14	おもいきり外であそぼう	学校や地域で、すぐに出来る	〃
21	〃	たのしい野外ゲームを覚え、そ	〃
28	〃	の指導方法を身につけよう。	〃
3. 7	食料をつくろう	簡単なパンをつくってみる。	〃
14	ちょっとしたおもちゃをつくろう	簡単でよくとぶ紙ひこうきを創る	〃
21	室内でゲームをたのしもう	室内ゲームの指導方法とその実際	〃
28	デーキャンプ実習	オリエンテーリング(市内)と カレーライスづくり	御野弘氏、中学 生リーダー 2名

わんぱく教室 (白梅分館)

手づくりおもちゃなどの技術と、それを使つての遊びを身につけ、集団で遊ぶことの楽しさを知る機会として実施した。

期 間 7月9日(水)～8月20日(水) 午後2時～4時30分 全8回

参加者 30人×8回=240人

月 日	テ ー マ (内 容)	講 師	場 所
7. 9	ゲームを覚えよう 班編成	担 当 職 員	白 梅 分 館
7. 16	ゲームを覚えよう	〃	〃
7. 24	草花で遊ぼう	佐 藤 文 子 氏	南 公 園
7. 30	水でっぼうを作ろう	担 当 職 員	白 梅 分 館
8. 6	竹馬を作ろう	山 本 信 男 氏	〃
8. 11	デイキャンプ打合せ	担 当 職 員	〃
8. 13	デイキャンプ	担当職員・中学生指導員	柳 山 公 園
8. 20	ま と め	担 当 職 員	白 梅 分 館

子ども手芸教室 (白梅分館)

物をつくることによって子どもたちの創意工夫を促し、自分の手で物をつくることの楽しさ

を味わい、教えあいの中で仲間づくりができるように実施した。

期 間 7月28日(月)～8月4日(月) 午後1時30分～4時 全5回

参加者 25人×5回＝125人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 28	オリエンテーション	自己紹介、班分け、プログラムの説明	担当職員
7. 30	軍手人形づくり ①	マスコット人形(ブタ)	〃
7. 31	〃 ②	動 物(クマ)	〃
8. 1	〃 ③	人 形(女の子)	〃
8. 4	〃 反省会	〃 手芸教室の反省	〃

子ども指人形教室(子ども会リーダー研修会) (白梅分館)

子ども達の力で、人形づくりから上演まで行うことにより、想像力・創造力・自主性を養う機会として実施した。

期 間 10月8日(水)～1月28日(水) 午後2時～4時30分 全14回

参加者 10人×14回＝140人

月 日	テ ー マ (内 容)	月 日	テ ー マ (内 容)
10. 8	どんな人形劇をするか話し合い 紙ねんどづくり	12. 3	け い こ
		12. 10	〃
10. 15	人形の顔づくり	12. 17	舞台づくり
10. 22	〃	12. 24	〃 舞台げいこ
10. 29	人形の顔に色をぬる	1. 14	発表会のためのポスターづくり
11. 12	人形の衣装づくり	1. 21	舞台げいこ
11. 19	〃	1. 28	発表会『あぶないうさぎどん』 二本上演 『ぞうのはなはなぜながい』
11. 26	人形の動かし方		

冬のわんぱく教室 (白梅分館)

手づくりおもちゃなどの技術と、それを使っての遊びを身につけ、集団で遊ぶことの楽しさを知る機会として実施した。

期 間 12月6日(土)～1月31日(土) 午後2時～4時30分 全7回

参加者 32人×7回＝224人

月 日	テ マ	講 師
12. 6	班編成・ゲームでたのしもう	担当職員
12. 13	かん馬をつくってあそぼう	〃
12. 20	映画「雪の女王」をみよう	〃
12. 26	お正月に家族で楽しめるゲームをおぼえよう	〃
1. 17	みんなですもうをしよう	〃
1. 24	わりばし鉄ぼうをつくってあそぼう	〃
1. 31	まとめ・ひょうしょうしき	〃

(3) 青 年

青年学級（英会話）

国際感覚豊かな青年が望まれる昨今、青年の英会話学習要求は目をみはるばかりである。ここでは英会話の学習を通じて仲間づくりを進めながら、自分を、福生という地域の中で見つめる機会とした。クラス運営や内容編成など参加者の主体的活動をもとに実施した。

1. 期 間 昭和55年5月15日～昭和56年3月26日
毎週木曜日 午後7時30分～9時30分 全40回
2. 会 場 福生市公民館第5集会室及び第2集会室
3. 講 師 宮本 長治氏（青年学級専属講師）
4. 教 材 アメリカ口語教本「入門用」
5. 対 象 15才～25才までの男・女（初心者）
6. 参 加 者 25人×40回＝1,000人
7. 自主活動 キャンプ、パーティー等

参加者の分類

年齢	16～18	19～22	23～25
男	2	0	2
女	6	※ 13	2

※ うち社会人3名、学生10名

青春教室

青年の活動がみえなくなって久しいと言われる昨今である。確かに青年のサークル活動への参加はひとところから比べれば“どん底”状態である。しかし青年自身の意識には、“何かに情熱を燃やしたい”“なんでも語り合える仲間がほしい”というものが共通にあるのでは、と思う。ここでは、青年の個々の要求をもとにして、何でもやってみよう、という呼びかけのもとに実施した。

1. 期 間 昭和 55 年 9 月 6 日 ～ 継続
毎週土曜日 午後 7 時 ～ 9 時 30 分
2. 会 場 公民館及び白梅会館
3. 対 象 30 才ぐらいまでの男・女
4. 参 加 者 最大 17 名（多少変動あり）
5. 活動内容

参加者の要求をそれぞれ汲みあげ、それをプログラム化していく過程で、個人個人の参加動機、もとめるものが、ある程度ひろがりをもつため、それをカバーする意味で活動を(1)学習、(2)討論、(3)読書会、(4) out door 活動、という四本柱に設定、メンバー内の中心者の意向も手助け、「差別について」というテーマをメインにおき、学習、討論、読書会を行う。と同時に、種々の親睦会、合宿なども行ないメンバー同士のつながりを形成する。

現在、新たなテーマをめぐって、話し合いを重ねている状況である。

青年のつどい

青年のサークル活動参加への一つの契機、サークル活動自体の活発化をねらい、一泊二日を実施した。尚、当日の企画運営を企画委員会を形成し準備にあたった。

1. 期 間 昭和 55 年 11 月 23、24 日（一泊二日）
2. 会 場 東京都五日市青年の家
3. 対 象 青年一般
4. 参 加 者 9 名
5. 内 容
 - 1) 自己紹介
 - 2) サークル活動の現状と問題点
 - 3) 個々人の課題と解決に向けて

（企画委員会）

1. 期 間 昭和 55 年 10 月 20 日 ～ 11 月 17 日
毎週月曜日 午後 8 時 ～ 10 時 全 5 回
2. 参 加 者 4 人 × 5 回 = 20 人

尚、実施にあたり、後援として、福生市青年団体連絡協議会に協力をいただきました。

若い市民の講座

青年層の学習・文化活動の要求に応える為に、さらに、サークル活動の活発化をねらい、青年団体連絡協議会との共催で 2 コース実施した。

(A) 初心者のための吹奏楽講習会

期 間 昭和 55 年 12 月 7 日 ～ 56 年 2 月 22 日

毎週日曜日 午前10:00～12:00 全10回

会 場 公民館音楽室・視聴覚室

講 師 西田 寿喜氏 福生吹奏楽愛好会会員

参 加 者 15人×10回＝150人

プログラム

回	月 日	テ ー マ	内 容
1	12/7	オリエンテーション	自己紹介、楽器の扱い方
2	14	奏 法 1	呼吸の方法、マウスピースのあてかた、音出し
3	21	奏 法 2	ロングトーン
4	1/11	奏 法 3	ロングトーン
5	18	奏 法 4	譜面の読み方、音階練習
6	25	奏 法 5	〃
7	2/1	奏 法 6	リズムの練習
8	8	奏 法 7	〃 タンキングの練習
9	14	奏 法 8	福生吹奏楽愛好会 アンサンブルコンサート参加
10	22	奏 法 9	簡単な合奏

(B) 放送劇の創作講座

期 間 昭和56年1月24日～4月4日

毎週土曜日 午後7時30分～9時30分 全10回

会 場 公民館視聴覚室

講 師 小山 高男 氏（日本放送作家協会）

参 加 者 20人×10回＝200人

昭和56年 成人式及び成人のつどい

成人した人達を祝い励ますとともに、成人式及び成人のつどいをひとつの画期として、成人することの意味、地域の間人間関係などを再確認する機会として実施した。

1. 主 催 福生市、福生市教育委員会、成人のつどい実行委員会
2. 開 催 日 昭和56年1月15日(木)
3. 会 場 福生市民会館大ホール、第4・5集会室
4. 内 容

(ア) 成人式典 午前10時30分～11時30分

- (1) 開 式
- (2) 主催者あいさつ（市長、教育委員長）
- (3) 来賓祝辞（市議会議長）

ｲ) 成人のつどい 午後0時～2時30分

- (1) フリー・トーキング
- (2) 実行委員紹介
- (3) 大友節子 on STAGE
- (4) みんなで歌おう
- (5) 実行委員長挨拶
- (6) レクダンス

5. 対 象 者 昭和35年4月2日から昭和36年4月1日までに出生した607人

6. 参 加 者 成人式典 366人
成人のつどい 125人

7. 成人のつどい実行委員会

「成人のつどい」は、1) 成人者自身が成人することの意味を再確認・再認識し、それを皆のものにする。2) 成人のつどいを自分達の手でつくることによって、共通の活動への参加、連帯性の生まれる契機とする。3) 地域社会の活動への参加により、地域を考える契機とする。を目的とし、新成人者全員に郵送した呼びかけで参加した7名の成人者で実行委員会を結成した。

月 日	内 容
11/12(水)	第1回 実行委員会 1人しか集まらず今後の人集めを考える。成人式のイメージを出す
19	第2回 //
26	第3回 新たに地元のメンバー3人が参加、自己紹介を含めて、成人することの意味を考える。
12/3	第4回 新たに2人参加、総勢6名。
10	第5回 各自がつどいのイメージを語り、企画を練る。
17	第6回 //
24	第7回 //
28(日)	第8回 新たに1人参加 //
1/5(月)	第9回 当日に向け 詳細準備
8(木)	第10回 //

月 日	内 容
1 / 11 (日)	第 11 回 実行委員会 当日に向け 詳細準備
12 (月)	第 12 回 //
14 (水)	第 13 回 //
15 (木)	当 日 //

※ つどい終了後、実行委員のメンバーを中心に、今後もこのような仲間関係を継続しようというこで、グループとして活動している。

(4) 婦 人

婦人グループリーダー研修会（婦人グループ連絡会）

都市化・核家族化等、地域の急速な変化は、婦人の生活を大きく変えることとなった。そうした中で、地域婦人活動も一定の変化をしてくている。そこで、婦人の地域における共同・協力関係を形成するとともに、学び育くみ合うつながりを形成するために、60代から30代の婦人の結合となっていくよう、婦人グループ連絡会（仮称）が以下のように実施された。

1. これからのグループ間の交流にむけて
2. 婦人グループ活動の現状と問題点
3. 婦人の地域での生活課題及び、当連絡会の活動について
4. 各婦人グループ活動の内容の紹介と相互交換
5. 集団活動を通じての婦人の世代間の結合の重要性について
6. 高令者の語らいの広場のメンバーと当婦人グループ連絡会との交流
7. あらためて良き家庭形成にむけての学習とは etc.

期 間 昭和55年4月から年間（原則月例、年10回）

会 場 福生市公民館

参 加 12人×10回＝120人

婦人学級 子どもの成長とともに、自らも豊かな生活を

息子さん、娘さんと生きる確かなものを見つけ合うために。そして、自らの人生の中で最も手ごたえある年代を迎えるために一。

こうした希望が実際のものとなるよう、1). 婦人のライフサイクル、2). なごやかな家庭、3). 仕事のこと、地域のこと。社会の流れを見つめながら、学びのつながりが得られるよう実施した。

期 間 昭和56年2月6日(金) 午前10:00～正午(全9回)

会 場 福生市公民館

参 加 12人×9回=108人

※ 以後、自主婦人学級として、同世代のつながりのふくらみにむけ、スタートする。

回	月 日	主 題	内 容	備 考
1	2月6日	開講にあたり	これからの進め方。自己紹介(息子・娘さんの成長過程から)	職員説明、話し合い。
2	2月13日	中・高生期の発達の特性	この時期の発達の特徴と青年前期の集団での特性。	多摩教育事務所 井上裕吉氏
3	2月20日		学校生活を中心に、いくつかの事例から	同 上
4	2月27日	娘さんの生き方と 婦人のライフサイクル	青年前期の女子の自立の芽ばえから 婦人のライフサイクル。	東洋大学助教授 神田道子氏
5	3月6日	40代からの豊かな 生き方	よき家庭形成から社会参加へ(学び の中で豊かな主体)	話 し 合 い
6	3月13日	今を生きる姿 (40代からの私の生き方)	私の生き方から。老後の生き方と学 びそして地域。	小金井老後問題研 倉橋良子さん
7	3月20日		私の生き方から。家庭形成者として 問われる能力。	ふっさ月曜会 志村立さん
8	3月27日		私の生き方から。婦人の地域活動か ら海外婦人生活視察。	生活学校 天田君子さん
9	4月3日	まとめとこれから	これまでの感想と今後のつながりに むけて	話 し 合 い

幼児の成長・発達を考える教室

私達の住む福生市においても、都市化・核家族化が進行し、幼児が近隣の子どもとともに遊ぶ機会を失ないつつある。

そこで、この教室では、幼児の近隣での友達づくりに必要な事柄を中心に、家庭での育児や集団保育、そして近隣の親同士のつながりについて考えてみた。

期 間 昭和55年6月14日(土) 午前10:00～正午 全12回

会 場 福生市公民館

参 加 15人×12回=180人

※ 以後、“つみきの会”として自主化し、育児能力の向上、親の役割について学習。

回	月 日	主 題	内 容	備 考
1	6月14日	オリエンテーション	公民館の幼児教育及び幼児教室実施参加の説明	職員の説明 話し合い。
2	6月21日	親の学習プロ紹介	子育ての学習内容紹介及び、育児と私	話 し 合 い
3	6月28日	幼児の成長と 発達を学ぶ	ころりん村幼稚園見学(環境と体験の大切さ)	案 内 細谷勇太郎 氏
4	7月 5 日		「子どもの世界の捉え方」原体験の蓄積について	講 師 大 堀 容 子 氏
5	7月12日	私の感想	提起された事柄と現実の比較から	話 し 合 い
6	7月19日	保育室で子どもは！	子どもの仲間への適応状況と集団の立体性について	公民館保育者 松 崎 靖 子
7	7月26日	集団の中の子ども	親が幼児の集団に係わる 視点と方法	公民館保育者 中 山 明 子
8	8月23日	幼児の 母親として 集団から学ぶ (保育室にて)	第1班 婦人の“生活と地域”を考える視点	職員の提起と話し合い。
9	8月30日		第2班 保育室より 家庭・地域・子どもの教育に思う。	志 村 立 さん (保育者・中山明子)
10	9月 6 日		第3班 “Ⅱ 遊び仲間への参加について心構え。	話 し 合 い (保育者・稲木道子)
11	9月13日		“Ⅲ 近隣の親のつながりと子ども集団。	事 例 保育者・稲木道子
12	9月20日	ま と め	これまでの整理と今後の活動について	話 し 合 い

親善婦人文化交流事業(ふっさレディースフレンドサークルとの共催)

横田基地将校婦人クラブの働きかけにより、日米親善の一環として、婦人間の文化交流事業を、英会話習得を含め実施し、本年は6年目である。

文化交流を軸に、アメリカ社会の生活様式及びアメリカ婦人の生活を学び、日本の文化・生活の紹介など相互交換の機会として開講した。

1. 期 間 昭和55年9月4日(木)から、昭和56年5月28日まで。

2. 曜 時 毎週木曜日、 午前10時～正午と、午後1時～3時。

3. クラス 午前クラス A・B・C クラス。午後クラス、D・E・F クラス。

4. 会 場 福生市公民館（各室）

5. 交流及び指導 アメリカ婦人によるボランティアティーチャー（12人）

6. 将校婦人クラブ世話役 Mrs Yoshie Brady。

参加 1 クラス 15 人 × 6 クラス × 40 回 = 3,600 人

7. クラスリーダー連絡会

“ふっさレディースフレンドシップサークル”が、よき交流事業実施にむけて、次のようにすすめた。

(1) 日常のクラス運営及び学習方法の研究。

(2) アメリカ婦人のコミュニティー活動の研究。

(3) 交流事業の企画・実施、（本年度は、文楽の鑑賞・福生五小見学案内・陶芸家窯もとの見学 etc を実施）

(4) 地域婦人グループとの交流。

参加 12 人 × 10 回 = 120 人

婦人問題講座「新たな婦人の生き方をめぐって」（松林分館）

婦人のおかれている状況を客観的に整理し、家庭・職場・社会にある婦人問題解決の糸口となるように。

期 間 10 月 31 日～12 月 5 日 午後 7 時～9 時 全 6 回

参加者 10 人 × 6 回 = 60 人

月 日	内 容	講 師	場 所
10. 31	オリエンテーション		松 林 分 館
11. 7	婦人労働とその周辺	来 檜 琴 子 氏	〃
11. 14	共働きと家庭	（婦人問題研究家）	〃
11. 21	ライフサイクルの変化と婦人の自立	富 永 静 枝 氏	〃
11. 28	婦人労働の現状	（白梅短大助教授）	〃
12 5	婦人が働く条件づくりをめぐって		〃

婦人文章教室（松林分館）

毎日の生活に押し流されている婦人が、書くことによって、自分と自分の生活をみつめなおし、また、自分の考え方価値観を文章で書けるようにする。

期 間 1 月 26 日～3 月 2 日 午前 10 時～正午 全 6 回

参加者 28 人×6 回＝168 人

月 日	内 容	講 師	場 所
1. 26	書く生活を見つめなおしてみましょう	下 沢 勝 井 氏 (法 政 大 講 師)	松 林 分 館
2. 2	具体的な文章の手入れをしてみましょう		〃
2. 9	ききがきをしてみませんか		〃
2. 16	ききがき作品を紹介します		〃
2. 23	参加者の文章を読みあいましょう		〃
3. 2	わかりやすい文章を書くために		〃

家庭教育学級（松林分館）

子育ての不安、混乱の中で、どう乳幼児を育てていくのか、親にとって発達観の形成と、乳幼児期のさまざまな問題を学ぶ。準備会 10 回、延 80 人、本講座、198 人、10 回。

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9 月 25 日	オリエンテーション	自己紹介と準備会について説明	担 当 職 員
10 月 2 日	いまかかえている問題は	自分の子育ての体験を各自が出しながら、いまかかえている問題を出し合う。	参加者と担当職員
9 日	〃		〃
16 日	〃		〃
23 日	〃	出された問題の整理と講座テーマへの要求を出す。	〃
30 日	プログラム原案検討	担当者のプログラム原案検討	
11 月 6 日	子育てをめぐって今、昔	日本の子育て観の変化をみていく	担 当 職 員
13 日	いま乳幼児の体は	いま子どもたちの体の発達をめぐって何が問題にされているか。	
20 日	子育てをめぐる社会環境	子育ての環境がどう変化してきたのか。	
27 日	保育一元化をめぐって	保育問題と保育政策をめぐって	
12 月 4 日	子どもと一緒に	軍手人形の制作	担 当 職 員
11 日	〃	〃	
1 月 9 日	本講座オリエンテーション	プログラムの説明と自己紹介	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1月23日	いま乳幼児の生活は	乳幼児のおかれている現状と子育て観	吉 村 真 理 子 氏 (都立保母学講師)
30日	〃	前回講議の話し合い	担 当 職 員
2月 6日	乳幼児の生活と文化	テレビの乳幼児に対する影響は	竹内希衣子氏(FCT)
13日	〃	前回講議の話し合い	担 当 職 員
20日 27日	乳幼児の心と体の育 っていく道すじは	乳幼児の心身の発達のすじ道を 明らかにしながら、発達を援助 する親のかかわりを明らかにす る。	小 川 博 久 氏 (学芸大助教授)
3月 6日	保育問題を考える	今日の保育問題の現状を明らか にする。	浦 辺 史 氏 (日本福祉大教授)
13日	地域で共同保育を考える	地域の子育てを共同保育の実践 から学ぶ	立川どんぐりの会
20日	からだづくりと子どもの 心(映画)	映画「体づくりと子どもの心」 鑑賞	担 当 職 員
27日	まとめの話し合い	講座を通してまとめの話し合い	

家庭教育学級 =子どもの生活と親の役割= (白梅分館)

子どもの基本的な生活リズムの乱れはさまざまな問題を生じている。子どもの生活をみなおし、家庭、地域における親の役割を考える機会として実施した。

期 間 10月9日(木)～11月20日(木) 午前10時～正午 全8回

参加者 23人×8回＝184人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 9	オリエンテーション	自己紹介、プログラム、運営について	担 当 職 員
10. 16	子どもの生活と遊び	子どもの生活の現状、遊びの意味	木 全 力 夫 氏
10. 23	子どもを通して	子どもの問題を話し合う	野 沢 久 人 氏
10. 29	子どもとテレビ	子ども番組とCM	石 子 順 氏
11. 6	〃	テレビの影響、テレビの活用	〃
11. 13	子どもの学力と日常生活	子どもの能力、学力と日常生活の関係	南 里 悦 史 氏

11. 16	子どものからだ	子どものからだはどうなっているか	正木健雄氏
11. 20	親の役割	子どもの問題に対する親の役割とは	木全力夫氏

婦人学級 =女の一生を考える= (白梅分館)

女性のあゆんだ歴史をふり返って婦人問題を学ぶ機会とし、これからの女性の生き方を考えるために実施した。

期 間 2月2日(月)～3月30日(月) 午前10時～正午 全9回

参加者 11人×9回=99人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 2	女性のあゆみ ①	婦人問題とは、女性の歴史－原始～江戸時代－	折井美耶子氏 (歴史科学協会)
2. 9	〃 ②	女性の歴史－明治時代以後－	
2. 16	女性と教育	女性がうけてきた教育、女子教育	
2. 23	主婦とは何か	主婦とは、女の役割、家庭の中の人間関係	
3. 2	女性と職業	働くことの意味、女性の労働をめぐる問題	
3. 11	子育てを終えてから	子育て後の女性の問題、社会参加の方法	
3. 16	女性と老後	老後の3大問題－貧・病・孤－、夫婦のあり方	
3. 23	〃	高齢化社会の諸外国の状況、老人文化	
3. 30	ま と め	女性の生き方について	

(5) 成人・一般

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟

2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。
(生活への還元・グループへの参加・新しいグループの創造)

(1) 公 民 館 連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。

(2) 文化連盟 連盟の持つ力を、市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大(参加者や活動面)に役立てる。

昭和55年度 市民文化教室 実施状況

文化連盟共催（13）

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参加 人員
油 絵	4月25日(金) から全10回	静物・風景・デッサン(石膏)	成 川 治氏	23
詩 吟	8月11日(月) 〃	大意・発声・吟じ方	井上吼征氏、田辺喜洲氏、綿貫吼石氏	4
俳 句	8月28日(木) 〃	現代俳句のやさしい鑑賞と作り方	霧の音俳句会 来住野 臥 丘氏	12
民 踊	7月18日(金) 〃	民謡踊り(花の手拍子・人生峠)	菊 泉 寿三福氏	33
民 謡	9月 4日(木) 〃	正しい発声法	福生民謡会 大 谷 光 利氏	29
社交ダンス	8月22日(金) 〃	基本ステップ・リズムのとり方	宮 永 昇氏	58
茶 道	9月 3日(水) 〃	裏千家流	茶道裏千家 山 田 宗 恵氏	20
編物手芸	8月 7日(木) 〃	やさしい小物とベスト	編物手芸会 常 田 きよ子氏	50
日本人形	7月18日(金) 〃	木目込み人形(童女・御所・市松)	酒井人形教室 酒 井 虹 晨氏	8
書 道	8月13日(水) 〃	漢字・平かな・基本の運筆とその知識	内 田 閑 堂氏	33
尺 八	8月 6日(水) 〃	都山流尺八の初歩的な吹奏習得	城 戸 皓 山氏	8
盆 栽	7月 5日(土) 〃	やさしい盆栽のつくり方(肥料のやり方・さし木・つき木・選定)	大谷光利氏 田中亥三男氏	12
将 棋	7月13日(日) 〃	駒の動かし方・将棋の歴史	羽 鳥 健 夫氏	50

公民館主管（3）

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参加 人員
8 ミ リ 映画制作	8月20日(水) から全5回	映写機操作・撮影	佐々木 堅 次氏	7
陶 芸	10月15日(水) から全8回	陶器のつくり方(茶わん製作)	柴 田 繁氏	20
デッサン	3月11日(水) 〃	デッサン(石膏)	井 上 新太郎氏	14

音楽団体リーダー研修会（音楽愛好者連絡会）

公民館オープンとともに、市民の音楽グループが漸増状況にあり、音楽団体に係わる方々がヨコにつながり、地域で市民音楽活動をどのように盛り上げていくかという点で、音楽愛好者のつ

どいを機に、昭和55年4月、仮称“音楽愛好者連絡会”がスタートするものとなった。

そこでは、ひとりひとりの生活の中に、音楽を育くむことを出発に、音楽団体を形成し、よき音づくりにむける。このことと共に、能動的な受け手として、ナマの音楽を享受する鑑賞層の広がりをもとめ、地域の音楽文化の向上になっていくことをその方向性としている。

1. 音楽団体の 出逢い、ふれ合いから相互の活動を知るために。

・活動内容 ・運営方法 ・リーダーとして ・私が音楽活動をすること。

2. 1つの構成による音楽会として市民文化祭に参加。

3. 第1回、“市民音楽祭”への取り組みにむけて。

4. 市民の音楽活動の充実にむけて、その土壌形成への各種研究。 etc.

期 間 昭和55年4月から年間、(月例、全15回)

会 場 福生市公民館

参 加 15人×15回=225人

子ども会リーダー研修会

マスコミが取り上げている種々の子どもの問題の中には、福生の中でも起きてても不思議はないと思えるものがある。子どもの問題を真剣に考え不幸な事件の起きないように、地域の大人のあり方を再考するため実施した。

期 間 56年2月27日(午後7時30分から9時30分まで)～4月3日まで 全6回

参加者 8人 延人数 30人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 27	何故 子ども会か	子どもの現状と集団活動の大切さ	野澤久人氏
3. 6	実践報告 (I)	星空子ども会の活動を聞く	比嘉佑典氏
3. 13	自然と子ども	子どもの成長に自然の果す意味	宮岡一雄氏
3. 20	公民館の利用	印刷機・フィルム等の技術的援助	公民館職員
3. 27	実践報告 (II)	マンガクラブの活動を聞く	原島卓三氏
4. 3	ま と め	これからの方向をみんなで考える	公民館職員

日曜市民大学講座 生きることと学ぶこと

現代は、日常生活で学ぶ必要と機会が広がりつつある時代。このことと共に、福生市の社会教育機関が整備されて来たことや、その利用も高まりつつあると言えよう。こうした中で、市民の学習・文化・教育の場となる社会教育(公民館)についての基礎的な理解を得る場として、

以下のように実施した。

期 間 昭和56年2月15日(日) 午後1時30分～4時30分 全7回

会 場 福生市公民館

参 加 15人×7 = 105人

回	月 日	テ ー マ	内 容	備 考
1	2月15日	講 座 準 備 会	学習内容・方法の検討 ほか	話し合い(打合せ)
2	2月22日	は じ め に	当講座のねらいとすすめ方について 自己紹介から参加の動機など。	話 し 合 い
3	3月1日	社会教育とは何か どう学んだらよいか。	・広義の社会教育の理論と実際を教育学の視点で。 ・狭義の社会教育を中心に、社会教育の学習方法論。	中央大学助教授 奥田泰弘氏
4	3月8日	公 民 館 の 役割とはたらき。	教育機関としての公民館の構成要素 (もの・ひと・機能)と、その役割・機能。	同 上
5	3月15日	人はどのようにして 人たり得るか。	最も弱い生物体としての人間が、最も高度な働きをもつ生物となるメカニズムを学習・環境(自然的・人的・社会的・文化的)等、基礎	明治大学教授 宮岡一雄氏
6	3月22日	みんなでつくるまちと 公民館(住民自治と公民館)	自分のやりたいことをやると同時に、公民館では“地域”“市民”をはずせない。みんなで創る意味を考える。	学芸大学教授 小林文人氏
7	3月29日	これからの公民館の充 実にむけて。	まちづくり、市民の日常生活に役立つ態勢と事業について。	同 上

市民大学講座 (経済)

日々変化の中にある経済状況の中で、あらためて日本経済について考え、国家財政(フィiscalポリシー)や、私達の生活に関連する地方財政などを学びながら、良き生活条件の整備などにもふれ、以下のように実施した。

期 間 昭和55年6月20日(金) 午後7時30分～9時30分、全6回。

会 場 福生市公民館

参 加 12人×6回 = 72人

回	月 日	テ ー マ	内 容	備 考
1	6月20日	は じ め に	・自己紹介及びプロ紹介・地域(公民館)の大学講座 ・フィスカルポリシーとは(歴史から)	話し合いと講座学習へ 殿 村 晋 一 氏 (専修大教授)
2	6月27日	日本の財政の	国家財政のしくみ(国債ほか)	佐 藤 哲 郎 氏
3	7月 4日	し く み	地方財政のしくみ(自治、受益と負担)	(都立商科短大助教授)
4	7月11日	景 気 政 策	財政・金融による景気政策について	佐 羽 菊 次 氏 (都立商科短大教授)
5	7月18日	技術イデオロギー	ハードパス・ソフトパス等通産政策から	話し合い及び助言 殿 村 晋 一 氏
6	7月25日	ま と め	公共下水道整備から地方自治あれこれ	話し合い及び助言 佐 藤 哲 郎 氏

市民大学講座 福生の自然と環境を考える

市内を流れる多摩川の水と福生の地域の現状を各専門家に分析してもらい、自然と私たちの日常生活のあり方を考える機会として実施した。

対象は高校生以上の市民とした。

期 間 10月1日(午後7時30分から9時30分まで)～10月29日まで 全5回

参加者 12人 延人数 50人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 1	多摩川の現状〔Ⅰ〕	河辺・河川敷の植物から見た自然	宮岡一雄氏
10. 8	多摩川の現状〔Ⅱ〕	水生生物(昆虫)から見た自然	田中和明氏
10. 15	多摩川の現状〔Ⅲ〕	昆虫の移りかわりから見た自然	栗原 仁氏
10. 22	環境としての自然〔Ⅰ〕	地形と日常生活を考える	武南 馨氏
10. 29	環境としての自然〔Ⅱ〕	水質と私たちの生活の関係	植松重男氏

指人形教室

福生には、指人形の自主グループ活動がいくつかあったが、近年停滞気味である。そこで地域の子ども文化の一部を向上させる大人の集団(指人形グループ)を作り、以後自主的に活動して行くよう考え実施した。

期 間 56年3月2日(午後7時30分から9時30分まで)～3月23日まで 全7回

参加者 8人 延人数 53人

月 日	テ ー マ ・ 内 容	講 師
3. 2	オリエンテーション、油ねん土による人形の頭作り	原嶋サブロー氏
3. 5	人形の頭に和紙をはりつける〔Ⅰ〕	
3. 9	人形の頭に和紙をはりつける〔Ⅱ〕	
3. 12	油ねん土の取り出し、切断面のはり合わせ。	
3. 16	顔の表情の書き入れ、色ぬり。	
3. 19	型紙を利用した洋服作り、身体の部分作り〔Ⅰ〕	
3. 23	型紙を利用した洋服作り、身体の部分作り〔Ⅱ〕	

自然観察会

私たちが日常的に生活を営んでいる福生を、自然の側面から理解しようとするもので、自然界の生物の活動に合わせ、人間にとって見やすい・理解しやすい時季を選んで実施した。

期 間 6月15日（午前9時から正午まで）～3月30日まで、全9回

参加者 168人 延人数 325人（各観察会の合計）

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 8	水生昆虫観察会	水生昆虫と多摩川の水質の関係を見る	田 中 和 明 氏
6. 15	植物観察会	初夏の植物を市内公園で観察する	宮 岡 一 雄 氏
10. 5	〃	秋の植物を近くの多摩川で観察する	宮 岡 一 雄 氏
2. 8	野鳥観察会	水辺のカモ類の観察	岡 田 紀 夫 氏 栗 原 仁 氏
2. 15	〃	玉川上水沿いの林に住む鳥の観察	
3. 8	〃	水辺のカモ類の観察	
3. 15	〃	草花丘陵に住む鳥の観察	
3. 30	〃	滝山丘陵に住む鳥の観察	
3. 29	植物観察会	春の植物を近くの多摩川で観察する	宮 岡 一 雄 氏

郷土史専門講座（市民大学歴史コース）（松林分館）

市民が自からの力で地域の歴史を発掘し、再構成する力を身につけ、地方史料を通して、歴

史学の研究法を実践的に身につける。論文提出とゼミ方式で行なった。

参加人数 準備会 3回 18人、本講座 4回 24人

プログラム

月 日	テ ー マ	報 告 者
6月 22日	準備会、オリエンテーション	担 当 職 員
29日	本年研究テーマの発表予定内容	〃
7月 7日	本講座での発表予定順の決定	〃
3月 5日	本講座のオリエンテーション	〃
12日	熊川地域の村明細についての一考察	立 川 愛 雄 氏
19日	玉川上水替 擁工事について	高 崎 勇 作 氏
26日	慶応一揆打ちこわし、熊川の農民	峰 岸 秀 雄 氏
4月 2日	近世多摩川魚撈の変遷について	宮 田 満 氏

講 座 万葉集を読む(Ⅲ)(市民大学文学2-2) (松林分館)

万葉集を読むことを通して、日本文学のすぐれた古典を学び、古典研究のたのしさを知るとともに、古代日本人の感情や感覚を学ぶ。

期 間 昭和56年2月25日から3月25日 毎水曜日 午前10時～12時 参加人数

プログラム

延 150人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2月 25日	東 歌	遠江以東の東国の民衆の中から生れた歌で、民衆の素朴な純真な気持がいきいきと表現されている東歌を2回にわたって読む。	高 野 正 美 氏 (都立立川短大 助教授)
3月 4日			
3月 12日	防人の歴史と制度	多くは東国から徴発され九州壱岐、対馬などの守備にあたった防人の歴史と制度を学ぶ。	
3月 18日	防 人 の 歌	防人として九州に派遣された東国の兵士とその肉親たちの歌で、別れに際しての悲しみを表現した歌が多く、東国民衆の生活感情風俗などもよみとれる。	
25日			

講座「学校教育を考える」（松林分館）

学校教育の問題を戦後教育史の中で検討しつつ、今日の学校教育の現状を考える。

期 間 6月27日から12月12日 毎金曜日、午前10時から12時 延180人。

プログラム

月 日	テ ー マ	内 容	
6月27日	オリエンテーション		
4日	いま子どもの現状は I.	子どもの現状をみんなで出し、K J法による図作製	担 当 職 員
11日	人間の発達とは	社教会館少年教育セミナーで太田堯（都留文大学長）氏の話聞く。	
18日	子どもの現状を分析する	子どもの現状をどういう視点でとらえるか。	白井 慎氏 (法大教授)
9月 5日	私にとって学校とは	自分の受けた学校教育についてレポート	担当職員、参加者
12日	戦前の教育制度	戦前の教育制度を通して戦前の教育を考える。	白 井 慎氏 (法 大 教 授)
19日	戦前の教育を考える。	前回の講義をもとに話しあい。	担 当 職 員
9月26日 10月 3日 17日 24日 31日	戦後の教育政策と制度	戦後の教育政策と教育制度にかかわる問題を、昭和20年代、30年代、40年代、50年代とに分けて、それぞれの特徴を明らかにし、戦後の教育の特徴と、その影響を明らかにしていく。	白 井 慎氏 (法 大 教 授)
11月 7日	戦後教育史を通して考えること。	戦後教育史と自分の受けた教育について話し合い。	担 当 職 員
14日	子どもの発達の危機と教科書。	今日の子どもの発達の危機の現状とその原因をさぐる。	奥 田 泰 弘 氏 (中央大学助教授)
21日	教科書と検定	教科書がどんなしくみの中でつくられていくのか。	
28日	学習指導要領と教科書	戦後の教育改革と学習指導要領とのかかわりを通して教科書の問題を考える。	
12月 5日	母親と教育運動	母親の教育に対するねがいを、どう実現させていくのか。その手だてをさぐる。	古 賀 禧 子 氏 (三 高 連)
12日	まとめの話しあい	この講座で考えたこと。	担 当 職 員

七宝焼教室（松林分館）

多くの人に親しまれている七宝焼を題材とした初心者対象の教室。

期 間 2月4日～2月7日 午後7時～9時 全2回

参加者 25人×2回＝50人

月 日	内 容	講 師	場 所
2. 4	七宝焼製作	下田和史氏	松林分館
2. 7	〃	(福生六小教諭)	〃

市民大学講座・法律（松林分館）

日常の身近かな問題から、私たちの毎日の生活を規律している「法」とは何かを考える。

期 間 1月30日～3月13日 午後7時～9時 全6回

参加者 26人×6回＝156人

月 日	内 容	講 師	場 所
1. 30	法の発達	松岡 誠氏 (創価大助教授)	松林分館
2. 6	法と正義		〃
2. 13	近代法の性格		〃
2. 20	身近かな事例から		〃
2. 27	法と社会	松岡 誠氏	〃
3. 13	ま と め		〃

利用者と職員の交流会（松林分館）

松林会館利用団体と職員により、利用団体相互の交流、分館運営に関するさまざまな事項について協議する。 参加人数 延 56人

月 日	テ ー マ	参加団体数
4月24日	55年度公民館事業説明と利用サークルの交流	5団体
7月13日	利用サークルの情報交換、松林文化祭について	8団体
9月11日	松林文化祭について	8団体
10月31日	「みんなでなんでも展」反省会	

「みんなでなんでも展」（松林文化祭）（松林分館）

松林文化祭として、地域に開かれ、根づく文化祭をめざし、当面、(1) 地域に手づくりの文化を育てるために、(2) 公民館の発表の場に、(3) ふれあいの場に、(4) 分館の活動を地域に広め、地域の人々が気がるに分館にかかわれる場としての文化祭を目標にした。実行にあたっては、松林利用者交流会が主体になって「みんなでなんでも展をすすめる会」を形成し、準備委員、及び、参加作品を地域から公募した。「みんなでなんでも展」のイメージは、準備会としては次のように決定した。「手づくり、下駄ばきで参加できる。気どりがいい、あたたかさがあること、お師匠の発表会にならぬこと、個人で参加できること、日常の活動がみられること、分館の活動がわかり、分館の宣伝もかねる」

準備会日程

9月 12日	「みんなでなんでも展」をすすめる会発足、展のイメージ検討。
20日	「展」のイメージづくりの検討。
27日	「出展作品、手づくり作品」とは何にかを検討。
10月 4日	当日に向けてのプログラム検討、作品の応募状況報告。
9日	利用サークルの出展作品の報告、準備会主催の模擬店の決定。
18日	当日の役割分担の決定と展示作品の配置図作成。
23日	作品搬入
24日	作品展示
25日	} みんなでなんでも展
26日	

みんなでなんでも展 プログラム 参加者 約 2,000 人

10月 25日、 書道・陶芸・絵画・手芸等の展示。文章教室文集展・幼児の生活実態調査報告展・映画会「ピッピーの宝島」。

10月 26日、 展示は25日と同じ、実演コーナー（ペタペタ工作・陶芸コーナー）、模擬店（やきそば）。

演劇、人形劇（ちいさな仲間たち）、影絵劇場（サークルななよん）。

松 林 文 庫

地域の母親と公民館との共催で、夏休みから、児童図書を中心とした、地域文庫を開催した。定例の文庫会議を月1回行なっている。

定例会月日	内 容
7月18日	文庫打ち合せ会
7月31日	月曜日、木曜日午前10時から12時まで、夏休み文庫開始。
8月28日	夏休み文庫反省会
9月11日	文庫会議、これからのすすめ方について、以後毎木曜日、午後3時から5時。
10月 2日	読み聞かせについて
12月11日	今後のすすめ方について、文庫当番のわりふり。
1月 7日	文庫新春ゲーム大会
2月 5日	子ども劇場宇佐美さんによる語り聞かせ「おばけのこわい話し」。
3月 3日	文庫の読み聞かせについて
3月28日	文庫カードの整理

利用者統計 11月28日から3月27日まで、利用者数 870人 貸出数 1935冊。

ただし、貸出は1人1回2冊まで、蔵書数 867冊、延開催日数 37日。

松林分館だよりの発行

地域と分館を結び、分館の活動及び社会教育に関する情報、市民活動の情報交流の場として松林分館だよりを2号から7号まで発行、発行部数1回1,000部、分館周辺地域に800部職員が配布。

子ども会指導者研修会 =いきいきした子どもたちを育てるために= (白梅分館)

子ども会にかかわる成人者を対象に、子ども達が地域で生き生きした生活を創りだすためには、どんな手だてが必要なのかを考える機会として実施した。

期 間 3月4日(水)～3月18日(水) 午後7時～9時 全3回

参加者 14人×3回＝42人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3月 4日	子どもたちの危機	今日の子どもの現状を明らかにする。	上田 融氏
3月11日	子どもの発達と遊び	子どもの発達と遊びの関係を考える。	南里悦史氏
3月18日	地域子ども会の指導をめぐって	子どもが主人公になる子ども会運営はどうしたらよいかを考える。	比嘉佑典氏

視聴覚リーダー研修会

視聴覚教育の拡充を目指し、16ミリ発声映写機操作講習会を次のように実施した。

実施期間 昭和55年7月23日～27日

会場 公民館視聴覚室

講師 西野 光芳氏（東京都立立川社会教育会館）他

参加者 25人×5＝125人

プログラム

日 時	7:00	8:00	9:00	10:00
23日(水)	開講式 (講義) 映写機の機構と操作		実 技 ①	
24日(木)	実 技 ②	③	④	
25日(金)	(講義)視聴覚教育について フィルム利用 保守管理		公民館 社会教育備品の 貸出しについて	
26日(土)	実 技 ⑤	⑥	⑦	
	AM 10:00	11:00	PM 2:00	4:00
27日(日)	実 技 ⑧	自由操作 (昼食)	個別操作	修了式

(5) 高 齢 者

高齢者グループリーダー研修会（高齢者の語らいの広場連絡会）

今年度、8回にわたって実施された、“高齢者の語らいの場づくり”準備会がもととなって、昭和55年12月から、仮称“高齢者の語らいの広場”連絡会がスタートするものとなった。

ここでは、高齢化社会を問題視するより、地域社会がなくなってきている状況の中にあって、地域で生活を育くみ合う点で、もてる力を表現することによる生きがいの追求という方向性ですすめていくこととした。

そこで、(1)人の在りよう(生きる確かなもの)を見つめ、(2)地域に世代間のつながりを形成しつつ、(3)市民みんなが育くみ合い、生活の共同・協力となって、住みやすい地域づくりにむける。ことが目標となっている。

まず、同世代の立場から、地域に、語らい、学び、育くみ合うつながりを広げていく場として実施した。

期 間 昭和55年12月から 月例にて実施(全4回)

会 場 福生市公民館 参 加 30人×4回＝120人

地域で、「高齢者の語らいの場づくり」にむけて、準備会

生活の年輪をもとに、人と人とのつながりの中で、ますます円熟した人生を送るために、今年度、初めて、この「語らいの場づくり」を実施することとなった。ここでは、たくましいおじいさん・おばあさん像を求めてみた。これからの夫婦の絆、おひとりの方の様子、世代間の連携等の問題や、地域の人と人とのつながりを、社会の動向を見つめながら語り合うこととなった。そして同世代の立場から、豊かな話し合いの場と、人がつながり育みあう場をどんなふうにつくったらよいか、そんなことからまず話し合った。

期 間 昭和55年10月1日(水) 午前10:00～正午、全8回。

会 場 福生市公民館

参 加 15人×8回＝120人

回	月 日	主 題	内 容
1	10月 1日	同世代の状況とその課題について	自己紹介から、お互いの問題意識の紹介
2	10月 8日		日常生活の基礎となる家庭。そのよき形成者として大切にしたい事柄
3	10月15日		高齢者の語らい準備会と婦人グループ連絡会の交流会。
4	10月22日		生活の中での学び、その意味と方法について I
5	10月29日		同 上 II
6	11月12日	その組み立て語り場の場づくり	(1) 場の名称について (2) 場の設定について(地区コース)
7	11月19日		(3) 呼びかけについて (4) 運営方法(各種)
8	11月26日		(5) 中味について (6) 実施への手順について

※以後、来年度具体実施にむけ、新メンバーを加え、30人の方々により、「高齢者の語らいの広場連絡会」として、月例で準備をすすめるものとなる。

松林ホーム・シアター(松林分館映画会)

上映日	上映作品	上映時間	入場者
5月 5日(月)	鯉のいる村	午後1時、3時 2回	70人
6月29日(日)	影絵劇場	午後1時半	103人
7月 4日(金)	ねむの木の詩	午後7時半	55人
8月23日(土)	野性のポリー	午前10時・午後2時 2回	152人
9月27日(土)	翼は心につけて	午後3時半・7時 2回	55人

上映日	上映作品	上映時間	入場者
10月25日(土)	ピッピの宝島	午後1時半	300人
11月22日(土)	長ぐつをはいたネコ	午後1時半・3時 2回	250人
12月21日(日)	雪の女王	午前10時・午後2時 2回	160人
1月10日(土)	ベンジー	午後2時	130人
2月21日(土)	サミーは小さな大選手	午後2時・3時半 2回	130人
3月20日(金)	街の灯	午後7時半	20人
3月21日(土)	彼岸花	午後7時半	17人

白梅親子映画会（白梅分館）

上映日	上映作品	上映時間及び入場者
6月7日(土)	ピッピの新しい冒険	午後2時・4時 254人
8月7日(木)	トム・ソーヤの冒険	午前10時・午後2時 210人
10月26日(日)	ピッピの宝島	午前10時・午後2時 135人
12月20日(土)	雪の女王	午後2時・3時30分 203人
2月22日(日)	サミーは小さな大選手	午前10時・午後2時 160人

白梅名画劇場（白梅分館）

上映日	上映作品	上映時間及び入場者
3月13日(金)	忍ぶ川	午前10時・午後7時 50人

6 市民会館主催事業

昭和55年度 市民会館主催事業

1. 目的

会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。

その一環として、市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いこい、また文化、芸術の創造の契機となるよう行なわれる。それは、市民が鑑賞者として、“すばらしいもの”を愛する心を、いつまでも持ち続け、会館が主催者として、市民の求める“すばらしいもの”を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とし、

開催する。

2. 今年度の目標

今年度は、定着化したオーケストラコンサート、ポピュラーコンサート、落語鑑賞会、映画会等、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を望んでいる。

また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に知ってもらうため、宣伝活動の徹底を心がける。

公演種目	日時	会場	入場料	入場者	出演者・内容
落語鑑賞会	昭和55年 6月28日(土)	市民会館 小ホール	前売券 400円 当日券 450円	172人	柳家 𠂔治、古今亭 志ん太 入船亭 扇好、林家 時蔵、 古今亭 朝太
ふっさニュー イヤーコンサ ート	昭和56年 1月18日(日)	市民会館 大ホール	指定1,500円 自由 大人1,000円 小人 500円	945人	指揮 芥川也寸志 演奏 新交響楽団 モーツァルト作曲 フィガロの結婚 他
春風亭 小朝 太田 裕美 ジョイント コンサート	昭和56年 3月21日(土)	市民会館 大ホール	S席 2,800円 A席 2,500円 自由 1,800円	419人	春風亭 小朝 太田 裕美

市民名画劇場

上映作品	上映日	上映回数及び入場者
白い巨塔	5月10日(土)	午後・夜間 2回 97人
ねむの木の詩	7月 5日(土)	午後・夜間 2回 280人
野性のエルザ	9月13日(土)	午後・夜間 2回 333人
エデンの東	11月15日(土)	午後・夜間 2回 384人
ベンジー	1月11日(日)	午前・午後 2回 205人
追 憶	3月 7日(土)	午後・夜間 2回 172人

いずれも市民会館小ホール

市制 10 周年記念行事

公演種目	日時	入場者	会場	出演者・内容
第 16 回 東京多摩郷土 芸能まつり	昭和 55 年 10 月 12 日(日)	1,100 人 (入場無料)	市民会館 大ホール	福生重松囃子、鈴木囃子、茶もみ 唄、留原囃子、機織唄、残堀囃子、 箱根ヶ崎獅子舞、青梅ひょっとこ 踊り、福島芝囃子、志茂町囃子、 二宮歌舞伎、他
文 楽	昭和 55 年 11 月 26 日(水) 2 回	1,387 人 (入場無料) 1 回 655 人 2 回 732 人	市民会館 大ホール	重要無形文化財保持者 竹本 津太夫 吉田 玉 男 他 心中天網島、二人禿、他